第２回木材調達チェックブック検討作成委員会　議事録（概要）

日　時：2010 年 10 月 8 日（金）13 時 30 分から 16 時 30 分まで

場　所：ウッドマイルズ研究会事務局会議室

出席者：（検討委員）中桐秀晴氏／山梨県森林環境部県有林課森林利用担当、松下修／松下生活研究所代表、榎本崇秀／（株）山長商店常務取締役、三澤文子／（有）MOK-MSD 代表、山村いづみ／東京大学大学院

（事務局）滝口泰弘／ウッドマイルズ研究会事務局長（記録）

（欠席：別途意見提出）藤原敬氏（社）／全国木材組合連合会常務理事、白石秀知氏／（特非）京都・森と住まい百年の会事務局長

議　事：(1) 第１回検討作成委員会のポイントについて　（別添資料 1）

(2) ウッドマイルズセミナー2010、アンケート結果報告　（別添資料 2）

(3) 木材調達チェックブック構成概要について　（別添資料 3）

(4) 今後の作業予定、次回検討会日程　（別添資料 4）

(1) 第１回検討作成委員会のポイントについて

・事務局より、第１回検討作成委員会のポイントについて説明し（別添資料１参照）、検討内容や結果について再度確認した。

(2) ウッドマイルズセミナー2010、アンケート結果報告

・事務局より、ウッドマイルズセミナー2010 およびアンケート結果について報告し（別添資料 2 参照）、セミナーの論点やアンケート結果について、確認した。

(3) 木材調達チェックブック構成概要について

・事務局より、第１回検討会およびセミナー結果等を踏まえた、木材調達チェックブック構成概要案を説明（別添資料 3 参照）。

【全体構成についての意見】

・一般向けリーフレットとして、ストーリー性をもって説明されている事項がチェックブックの目的であり、それに対してどうなのか、という部分で評価のレベルが決まってくる。この目的となる「何のため」という部分がしっかり見えてくると、評価レベルもより整理される。一般向けリーフレット部分の「だから木材をたくさん使いましょう！」は、「だから木材を上手に使いましょう！」の方がいい。

・チェックブックの評価レベルは、現状の関係者を広く拾い上げる評価がいいのか、それともＮＰＯ的団体として、レベルが高くても必要なことはやるべき、と主張するものがよいのか、という立場のとり方にもよる。

・顔の見える関係についても、関係性の強さ等によって、ある程度のレベルを分けても良い。

・最終的な評価対象は住宅１件分とするのか、または構造材のみ、とするのか。住まい手としては、目に見える内装材の印象が大きい。板材等も含めないと、一般の人には伝わらない。

・住宅１件の総合評価としてまとめることは難しい。公共建築物の内装やリフォームの場合もある。まずは「木材製品」を評価する手法をつくり、それを応用していく形がよい。

・合板等になると、各評価項目に、〇〇％以上使用している、等のボリュームの評価軸を入れる必要がある。

【「産地」と「流通」の評価指標について】

・森林認証材については、CoC 認証を取得した事業者からの製品でないと、森林認証材として証明されないため CoC 認証も前提となるが、事業者によって、構造材、造作材等、認証する部位の違いや、使用率 50%、70%という認証材の使用割合が異なる場合もあり、一言で森林認証材と言っても、色々とレベルが異なってくるため、むしろウッドマイルズの流通把握度 100%の方が CoC 認証よりも優位性がある。また、ＦＳＣとＳＧＥＣにおいても管理のレベルが異なる。

・「流通」の評価と、その他の各評価における「手法」が重複する。「流通」の評価はその他の各評価の手法と位置づけ、評価項目を５つから４つにした方が整理できる。

・「流通」の評価手法となっている、「森林認証・合法木材」と、ウッドマイルズの「流通把握度」は、評価する軸が異なるものである。流通把握度は自主的にトレースできたかどうかを、森林認証・合法木材はトレースの方法がどうなのか、を評価するものである。

・「産地」の評価手法の「森林認証」はＦＭ認証のみとし、CoC 認証が無くてもＯＫとしてはどうか。実際には FM 認証はたくさんあるが、そこから産出された材をつなぐ CoC 認証はあまり普及していない。

・「流通」の評価手法は、検証された流通なのか、そうでないのかで分けられる。つまり、顔の見える木材は、自主的なウッドマイルズの流通把握度のみとし、顔の見えない木材は、第三者が検証した CoC＋ウッドマイルズの流通把握度、と分けられる。

・５つのモノサシのうち、「産地」と「省エネ」の評価において、既に「流通」の評価が不可欠である。つまり目的が「産地」や「省エネ」を評価することで、その手法が「流通」であると思うので、「流通」は一つの評価として独立し得ない。

・「産地」や「省エネ」の評価が悪くとも、生産者と使用者が合意のもと、納得してやっているという、顔の見える関係のレベルを評価する意味で、「流通」の指標は独立してあった方がいい。顔の見える関係の部分をつくろうと、頑張っている人たちも多い。
・各指標の要求レベルの違いはあるかもしれないが、はじめから全て駄目ではなく、最初は一つでも良い部分がレーダーチャートで読み取れて、それから他の指標も頑張ろうという気持ちになるものがいいので、評価指標は多い方がいい。
・「流通」の評価は、独立してあった方が消費者への意識付けにもなる。また消費者としても、食べ物と同様に、木材の「流通」という部分をしっかりと知る権利もある。他の指標のための評価手法という位置づけだけではなく、独立した指標としてあった方が、色々と見えてくるものが多い。
・チェックブックの対象者は、山側ではなく建築側の人達であり、「流通」自体を問うことは、一つの目的になり得る。
・「産地」のレベル３について、信頼性を担保できるのは、やはり森林認証のみだが、自主的に認証基準を満たしたものもレベル３でよいのか、とても気になる。
・公的な信頼性の担保はなくても、顔の見える関係で山と消費者をつなぐということの方が、現実的には山を救うかもしれない。
・森林認証は費用が大きな壁であり、林業も苦しい現状でこれのみを推奨するのはいかがなものか。森林認証でなくても、持続可能な森林経営の公的な証明方法はないか。
・仕組みとしては、市町村が認定する施業計画があるが、実態は補助金をもらうために施業計画が作られ、年度末に補助金のために施業計画が調整されている。
・施業計画は、森林の吸収量クレジットの制度では、森林の持続可能性の公的書類として唯一認められている。
・九州でやっている「木になる紙」の活動では、こちらから森林組合に行って施業計画をチェックするようにしている。
・施業計画のシステムが問題ではなく、運用に問題がある。ただ、他に拠り所が無い。施業計画の対象森林から産出された木材で、第三者のチェックを受ける、というものであれば望ましい。
・完全な第三者でなくても、顔の見える関係者の中でチェックするということでもよい。建築関係者が通常は知らない施業計画を理解した上でチェックできるようになる、ということもチェックブックの意義の一つであり、知ることによって、このような木材のニーズも高まる。
・合法木材は、森林法に対して違法ではいという証明なので、森林の持続可能性を担保するものではない。
・顔の見える関係性の作り方等については、評価事例として、幾つかの方法を載せるのがいい。

【「省エネルギー」の評価指標について】
・評価手法の乾燥エネルギーについて、少しだけ重油を使って後は使わないという複合的な乾燥方法も多いので、複合的な乾燥の手法も入れるべき。
・高温乾燥と天然乾燥のノウハウは、大分県を中心にほぼ固まっていて、24 時間以内の高温乾燥

＋天然乾燥というやり方が主流だと思う。評価手法においても、乾燥機の熱や蒸気を図るというのは現実的に難しいので、例えば何時間乾燥機を回したか、といった評価手法の方がやりやすい。

・木材 1m3 あたりに使用した燃料のデータは通常の実務において出せるか？この平均値が出せれば評価ができる。

・同じ乾燥機でも、運転スケジュールによって使用燃料は異なる。

・九州大学のチームの報告では、大分方式（120℃で 12 時間高温乾燥＋天然乾燥）が主流のようである。乾燥に使用される燃料の平均的使用料等や、指標の拠り所として利用できそうな、かつ公開できるデータ等について、委員各位、関係者にあたって調査する。

・まずは、あまり難しく考えずに、乾燥工場の実務における燃料代という相場観等も含めて、ある程度の標準値を出せばよい。チェックブックの目的は、これらを用いた指標づくりにあるので、数値が誤っていても後に変更すればよい。

【「基本的な品質」の評価指標について】

・当事者間の確実な合意によるものは、レベル２ではなくレベル３に上げても良いと思う。

・ＪＡＳは、強度、含水率以外は比較的緩い基準である。目視等級３級以下のものも現状ではありえない。例えば、目視等級３級同等以上かつ含水率は当事者間の合意による、という形でＪＡＳを入れる方法もある。

・当事者間の合意については、書面をしっかりとかわすものから、口約束のものまである。この視点で、レベル３のものと、レベル２のものを分けてはどうか。

・当事者間の合意について、全て合意にしてしまうのではなく、少なくとも強度と含水率は計る、という基準にしてはどうか。ＪＡＳの機械等級区分でも、目視等級３以上が前提条件になっている。

・顔の見えない関係で、当事者間の合意がレベル２になるのも良くない。

【「長寿命」の評価指標について】

・「長寿命」の指標については、これでいいのかという疑問も残るが、今使えるものはこれくらいだと思うので、とりあえずこれで進める。

(4) 今後の作業予定、次回検討会日程

・事務局より、今後の作業予定（案）の説明があり、了承された（別添資料 4 参照）。

・第３回木材調達チェックブック検討作成委員会予定：1 月 20 日（木）13：30～16：30

以上